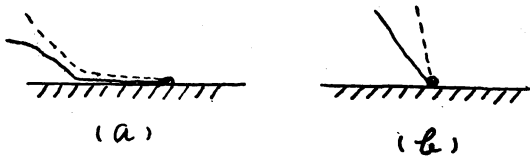


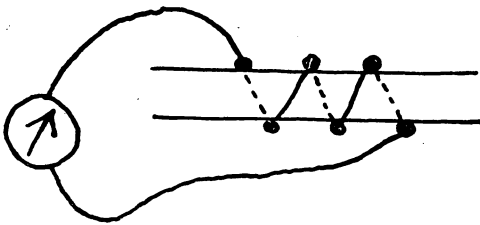
ことがある。

- 8. 弱電では接触抵抗が大きくなるから線の継ぎ目切換スイッチ等は十分気をつける。



第4図 表面温度測定

- 9. 測温に際して導線からの熱傳導のない様に留意する。たとえば表面温度を測定するとき図のbのごとくせずaのごとくする。(第4図)
- 10. 野外の測温等冷接点は温度変化を少くするため気温に近い水がよい。又半日以上の連続記録等は完



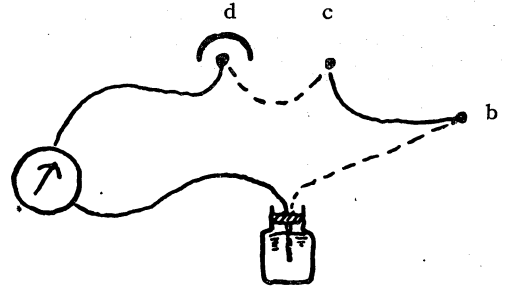
第5図 示差熱電対

全なマホー瓶のないときは冷接点を地中に埋めるとよい。

なおある場合には注射針に熱電対を入れると便利なことがある。

次に二三の応用例を述べると

示差熱電対——二点の温度を比較する場合には冷接点



第6図 日射の影響を防ぐ方法(高須)

をマホー瓶に入れず他の一点におけばよい、たとえば物体の表裏の温度差を測る場合一方の接点を表面へ他方を裏面に密着する、さらに第5図のごとく接点の数をn倍にすれば起電力もn倍となる。この場合には導線の熱傳導により差が小さくならないよう注意を要する。

日射の影響を防ぐ方法——京大高須教授は直射日光下の測温に第6図のごとくさらにc、d接点を作って一方をカバーしてb点の日射の影響をなくする方法を考案せられた。(農業氣象7卷3号)

きわめて薄い熱電対を作る方法——よく磨いた鋼の板の表面に半分を、たとえばニッケルメッキ残りの半分を銀メッキとする。これを安全カミソリの刃でメッキの部分をはぐときわめて薄いニッケルと銀の熱電対が得られる。(氣象集誌第2輯10卷昭7.p.608)

(中央氣象台研修所)

書評

冷害は避けられないか
 —昭和29年の異常低温報告—
 中央氣象台職員組合編集発行
 頒価 50円(印刷料実費)

大正7年の米騒動のとき、私は小学生だった。深夜、タイマツを手にした人々が“大きな家は燃やしつちまえ”と叫びながら街々をなだれ歩いた光景が私の眼に焼きついている。今夏のはじめに異常低温がつづいたとき、私の頭に浮かんだのもこの光景であった、秋か暮にはおなじことが起るのではないかと私は懸念した。

“この報告を作成した第一の動機は、現場で働く人たちが……今年の今までの氣象の異常がただごとでないと感じ、この状況を広く知らせる必要があると考えたからです……”(p.42)。この言葉がどれほど貴重であるかは、ビキニの水爆実験以来、放射能雨、黄変米、異常低温という国民的災害を予想されるほどの大異常に対しても警鐘が十分に鳴らされず、甘い十二章もの、山や海への行樂、スポーツなどに国民の眼がそらされている現状を見ただけでもわかる。この本の内容は、異常低温に対する専門家のあらゆる角度からの研究を簡潔にまとめ

あげたものである。その点では足りないものはないといえるが、愆をいえば異常低温がはっきり測定されたときの現場の人の心の動きをもっと卒直に表明してほしい。それこそがこの本を計画し、刊行させた原動力と考えられる。また“われわれは何をなすべきか”……“政治が悪い”という言葉も、たとえば北方定点の廃止をめぐる氣象台関係者と政府との折衝のようす、これを守るための努力、それと冷害との関係などのくわしい説明など、当面する諸問題ではっきり具体化されたとき専門外の私たちをもっとつよく打つとも思われる。

異常低温が、のべられているようにビキニの水爆実験とも関係があるとすれば、これは人工の異変であり、今後くりかえしておこる危険のあるものである。ふたたび水爆実験の行われる日は、日本人の死滅の日である。警鐘はいくたび乱打されても、たりるといことはない。

全農林労組関係の『死の灰かぐら』という本と同じ頃にいただいた、偶然の一致ではあるまい、関係者の非常な努力に敬意を表すとともに、このような小冊子を必要としない平和の日が到来することを信じ、そのために努める決意をいっそう強固にされたことを感謝したい。

(Z)